世界標準の英語テスト

VERSANT®
English Speaking and Writing Test

# グローバル人材の育成や採用に役立つ
# VERSANT 2018年度リポート

2019年5月

日本経済新聞社
人材教育事業局

partnership

NIKKEI Pearson

## リポートのサマリー

# 平均スコアは高めだが、会話力に大きな課題が

**・VERSANT総合スコアの平均は43.9点、日本人平均を6点近く上回る**

**・ネイティブと議論できる58点以上は、全体の1割**

**・TOEIC800点以上は963人、4割が会話力に課題**

**・大学生がハイスコアを連発、上位300人の4割を占める**

日本経済新聞社は世界教育出版大手の英ピアソン社と業務提携し、2016年から国内で本格的にVERSANTの販売を始めました。これまでに合計200社以上の法人顧客の皆様にご利用頂いています。有難いことですが、世界で活躍できる人材の育成には英語スピーキング力を詳細に把握できるVERSANTが有効だと評価してもらっているからです。

VERSANTの良さを理解してもらうために、様々なキャンペーンを実施して幅広く受験データを集めてきました。18年春から法人のモニター受験を始めたほか、就職支援大手のディスコ社と共同実施する「就活チャレンジ」なども開催し、2019年3月末までの1年間に蓄積した受験データは3475人分です。

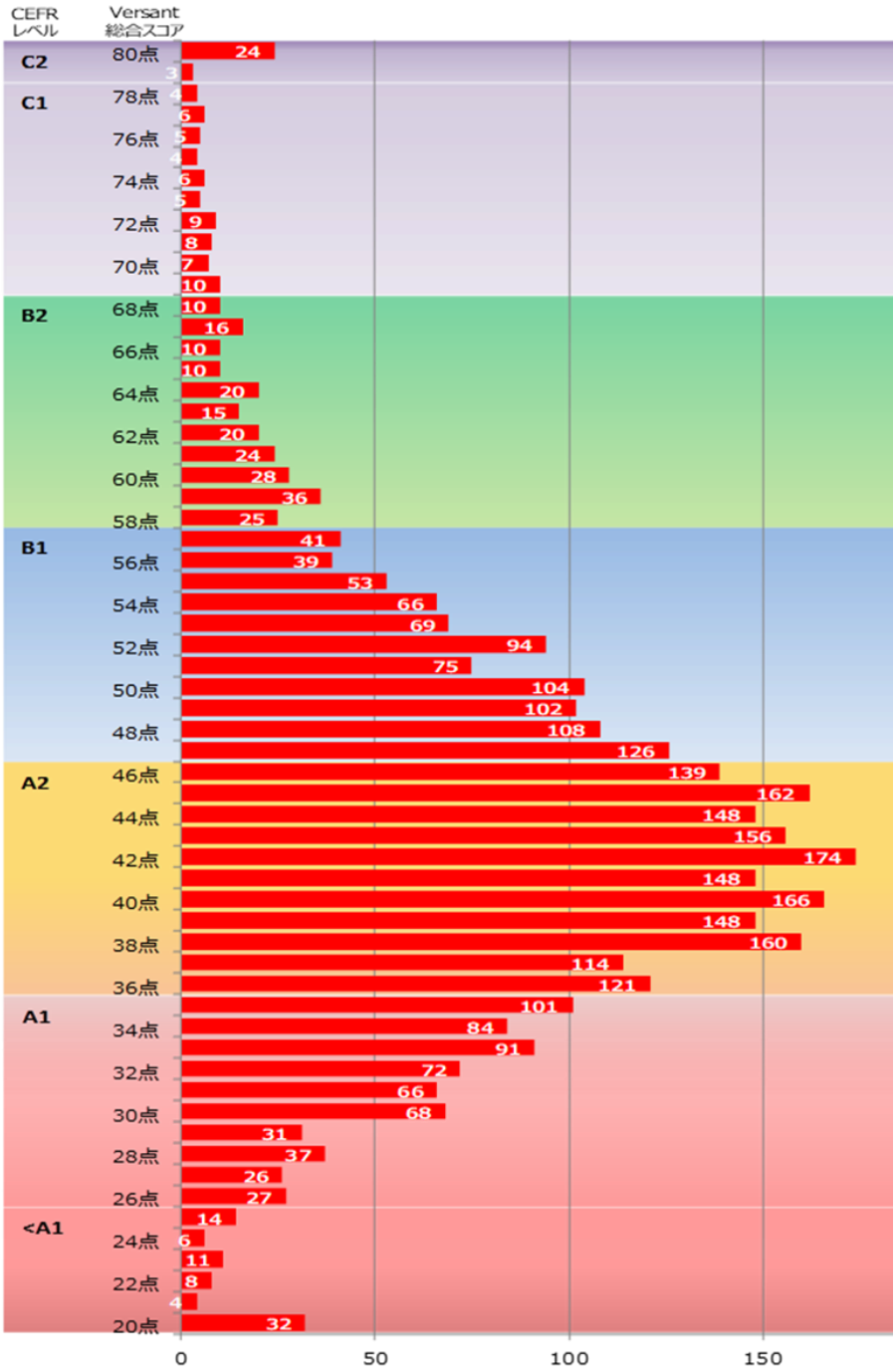
VERSANTの総合スコア平均は43.9点と、日本人平均の38点を大きく上回っています。TOEICスコアを申告したのは全体の6割近い1967人で、その平均スコアは764点です。800点以上も963人おられました。ただ、「英語の上級者」とされる高得点者の多くの方々も、VERSANTでは英語のスピーキングでかなり苦戦されていることが分かります。具体的には800点以上の約4割の方が英語でビジネスをするために必要とされるVERSANTスコア47点を下回っています。

VERSANTはピアソン社が開発する高度な自動音声認識技術を活用しています。総合スコアに加え「語彙」や「流暢さ」など4指標でも20点から満点の80点まで1点刻みで採点されます。スキルが見える化でき、最適な学習計画を進められます。今回の2018年度リポートを活用し、社員の英語力強化につなげてもらえれば幸いです。

# スコア分布
## 36点～46点が最も多いレベル

**・36点～46点がボリュームゾーン**

**・ネイティブと議論できるレベルは1割弱にとどまる**




ネイティブレベル（69点以上）は91人。全体の3%弱

ネイティブと議論できる58点以上も全体の1割に過ぎない

「海外赴任の目安」となる47点以上は全体の3割程度

36点～46点が大半
最も多いスコアは42点

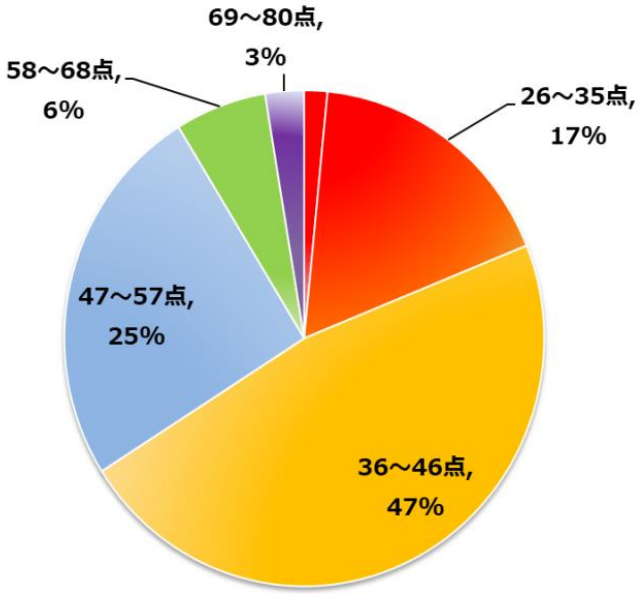
英語でコミュニケーションできない35点以下は全体の2割程度

## スコア分布・スコアの見方

# 海外で仕事をするのに必要な47点以上は、全体の3割程度

**・大半が「日常的なことについて簡単な会話ができる」レベル**

**・海外で仕事をするには47点以上が必要だが、全体の3割程度にとどまる**

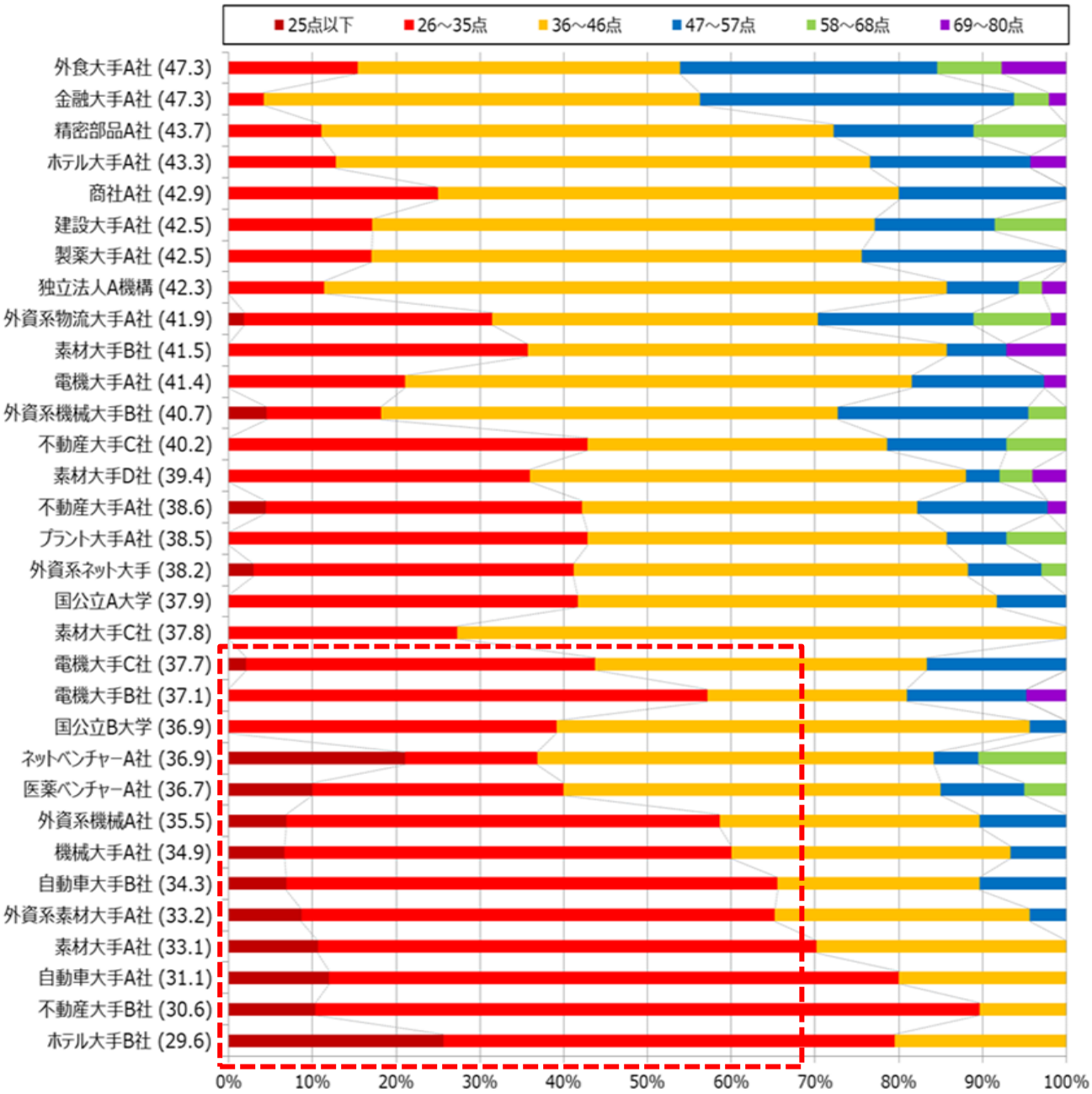



| 総合スコア | スキルの詳細 |
|---|---|
| 79～80点 | ネイティブのような会話速度でも苦労なく相手の話を理解し話すことができる。 |
| 69～78点 | ほとんど苦労なく流暢に自分の考えを表現できる。 |
| 58～68点 | ほとんどのニュースや時事問題の番組の内容を理解できる。広範囲の話題について流暢で正確に話せる。 |
| 47～57点 | 明瞭に発音された標準語であれば、会話の主な点が理解できる。関心のある分野などについて多少の自信を持って話せる。 |
| 36～46点 | はっきりと、ゆっくり話されていれば、ある程度の理解ができる。なじみのある日常的なことについて簡単な会話ができる。 |
| 26～35点 | 非常にゆっくりとした速さで明瞭に発音されれば、理解できる。暗記した文を短く途切れ途切れに使える。 |
| 20～25点 | ゆっくり直接話されれば、多少単語を理解できる。簡単な買い物のほか、日時を聞いたり伝えられる。 |

## 法人モニター企業のスコア比較

# 「ほとんど会話が成り立たない」企業が大半を占める

- **平均が47点を超えるのは2社のみ**
- **「ほとんど会話が成り立たない」35点以下の企業が大半を占める**



## 法人と大学生のスコア比較

# 大学生の勝利、47点以上が全体の5割

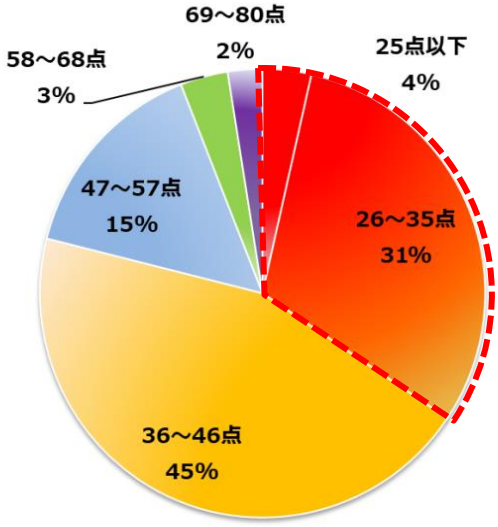
**・法人で47点以上は全体の2割に過ぎない**

**・大学生は全体の5割が47点以上を獲得**

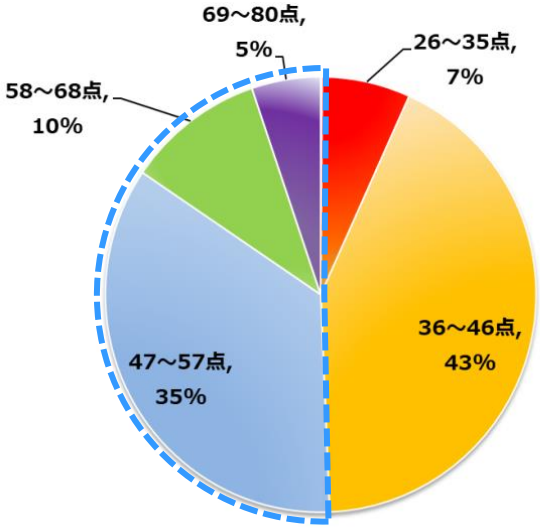
法人モニター試験では数人単位のトライアル受験を含めて1375人が受験しましたが、「海外赴任の目安」とされ、基本的なコミュニケーションができる47点（B1）以上は全体の2割に過ぎませんでした。ビジネスの英会話がほとんどなりたない35点（A1）以下は35%とかなり多くなっています。

一方、ディスコ社と共同実施する「就活チャレンジ」などで受験した831人の大学生のモニター受験では47点以上が全体の5割です。大学生モニターはネイティブとも議論できる58点以上が15%を占めています。

法人モニター総合スコア分布（1375人）




大学生モニター総合スコア分布（831人）




**※「B1」や「A1」などは世界的な英語力の指標である欧州言語共通枠（CEFR）によって決められたグレードで、C2からA1まで大きく６つあります。緑色のB2（58～68点）は欧米のグローバル企業がアジア人を採用する場合の最低限の英語力とされていますが、日本のビジネスパースンにはほとんどいません。**

## 4指標の分析：語彙

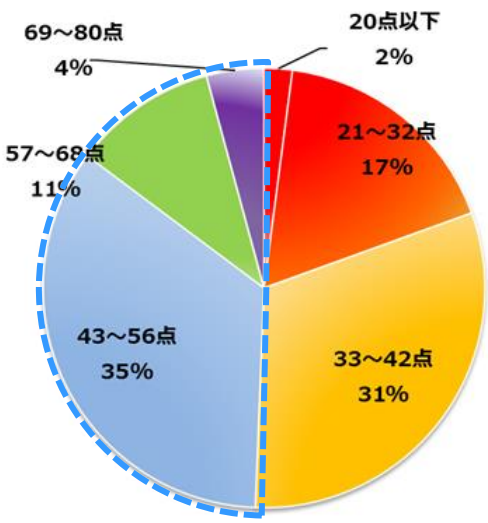
# 「語彙」が最も得意な日本人

**・法人でも5割が43点以上**

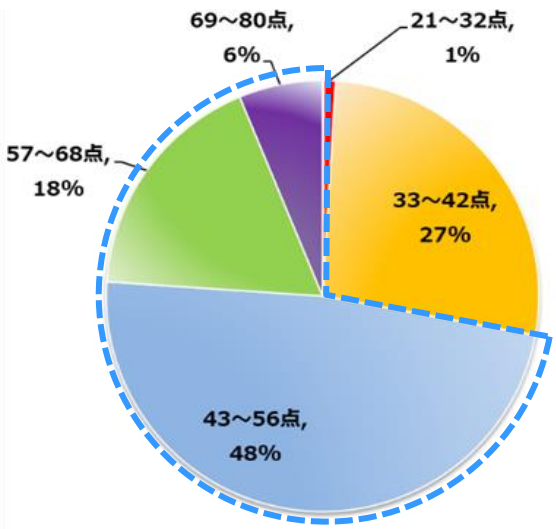
**・学生は7割が43点以上**

４指標の中で日本のビジネスパースンのスコアが最も高い「語彙」から説明します。主にリスニング力が試されます。日本ではTOEIC対策をしっかりされている方が多いので、「語彙」で高スコアを獲得される方が多いです。後述しますが、TOEICの900点台の申告者の「語彙」の平均スコアはほぼ60点でTOEIC800点台の平均は50点程度です。リスニング力は英会話の基本であり、英語を話すのが苦手な人も、まずはリスニング力を最低限引き上げなければ、コミュニケーションが成り立ちません。まずは50点以上のスコアを獲得したいところです。

法人モニター「語彙」スコア分布（1375人）




大学生モニター「語彙」スコア分布（831人）



## 4指標の分析：流暢さ

# 平均は36点、「流暢さ」が足を引っ張る

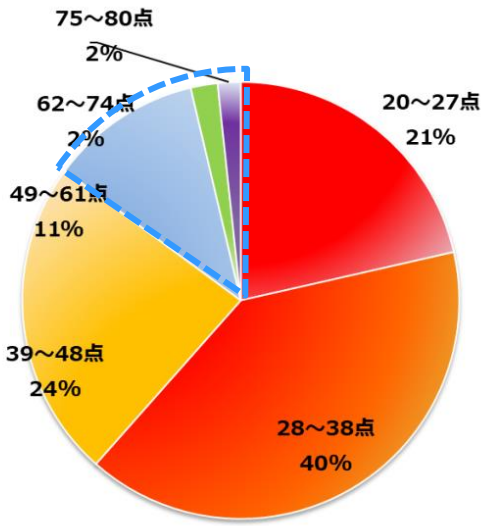
**・法人で49点以上は僅か14%**

**・大学生は4割が49点以上**

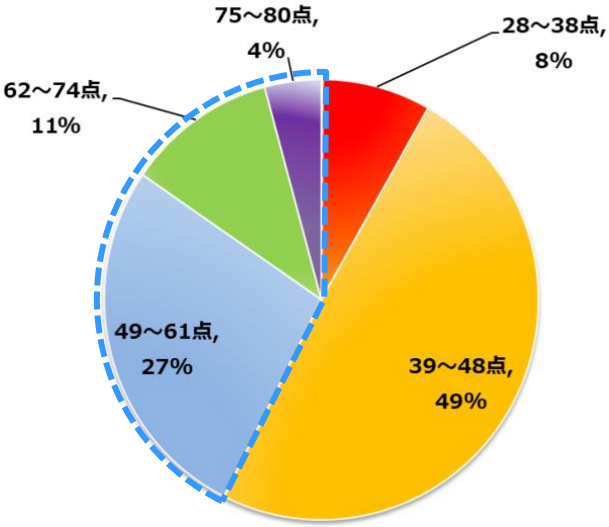
「流暢さ」スコアは、文章を読み上げたり、復唱したりする中でのリズム、語句の切れ目、テンポの良さなどを判定し、スピーキング力の基本が試されています。日本人の平均は36点です。日本のビジネスパーソンで平均的な28～38点では「不適切な区切りやリズムが多く、言い淀みや言い誤りも目立つ」というレベルになってしまいます。

法人モニターの1356人のうち、「流暢さ」で49点以上となったのは全体の14%に過ぎません。一方で38点以下は63%に達しました。「英語ができる」大学生が数多く受験したために対照的に49点以上が4割以上を占めています。「流暢さ」では英語を話すリズムやイントネーションが試されており地道な発話の訓練が欠かせません。

法人モニター「流暢さ」スコア分布（1375人）




大学生モニター「流暢さ」スコア分布（831人）



## 4指標の分析：文章構文

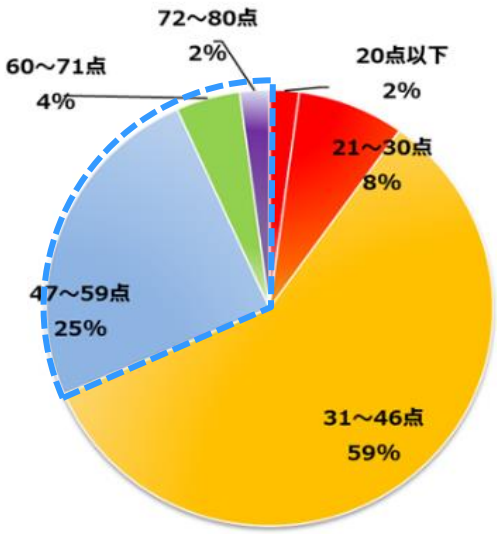
# 「語彙」と並んで高いスコアの「文章構文」

**・全体の平均スコアは46.6点、語彙とならんで高い**

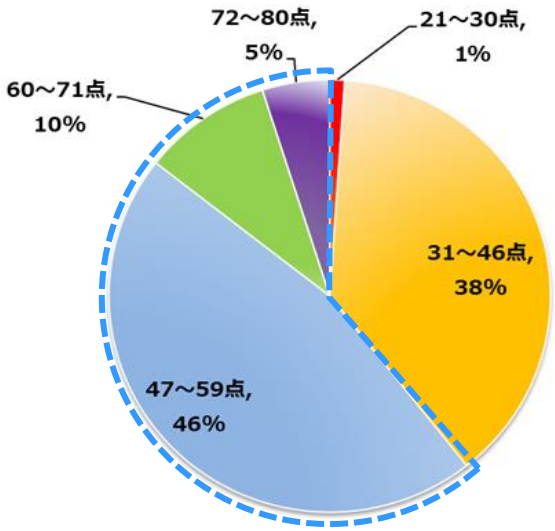
**・大学生は6割が47点以上**

「文章構文」では英語で話された文章をしっかり理解して、的確に構築できるスキルが試されます。文法的な知識に強い日本人では4指標の中で、「語彙」と並んで得意としています。全体の平均スコアは46.6点でした。ここでも大学生モニターのスキルの高さは突出しています。まず目指したいスコアである47～59点は「多くの語句や文節を理解して使える」レベルです。

法人モニター「文章構文」スコア分布（1375人）




大学生モニター「文章構文」スコア分布（831人）



## 4指標の分析：発音

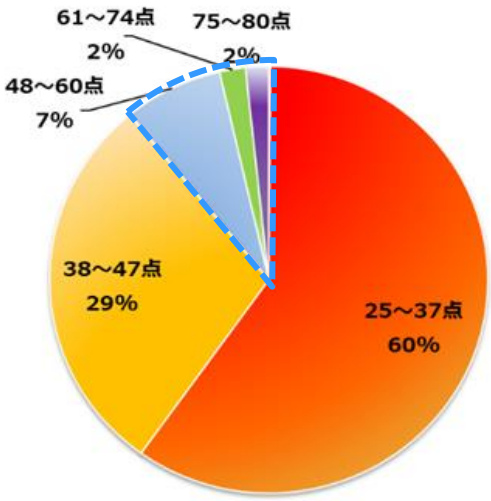
# かなり厳しい「発音」のレベル

**・法人で48点以上は僅か11%**

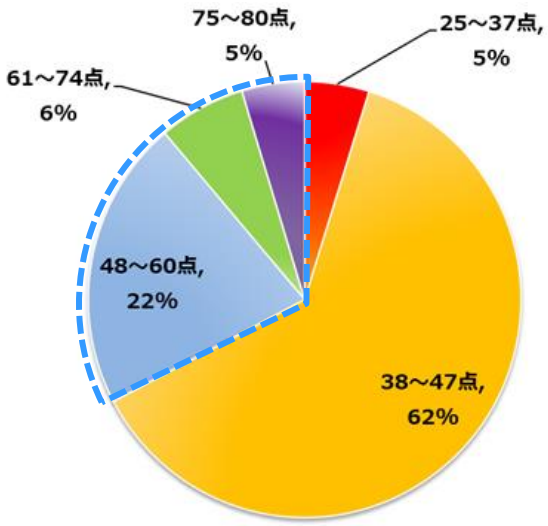
**・大学生でも48点以上は3割程度**

日本人の多くは英語の発音を苦手としてきました。「発音」スコアでも法人モニターでは37点以下が6割も占めています。これは「多くの子音と母音が不正解」「聞き手はかなりの部分を理解できない」という水準です。「発言は全体として明瞭」という48点以上は全体でも2割弱でした。ここもVERSANTでスキルを把握することが重要です。

法人モニター「発音」スコア分布（1375人）




大学生モニター「発音」スコア分布（831人）

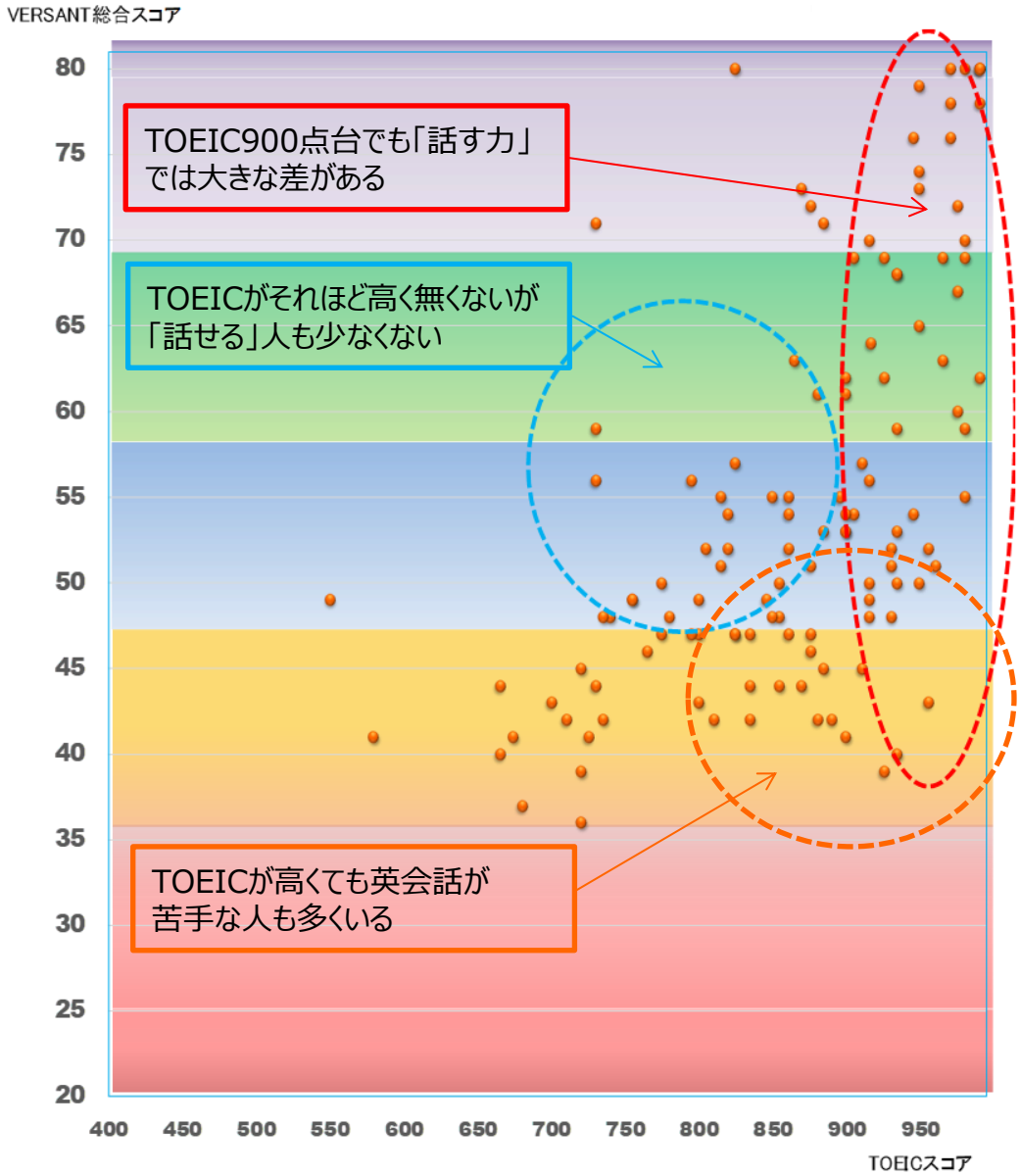


## TOEICスコアとの相関
# 「話せる」を測定できるのはVERSANT

**・TOEICのスコアが高い人がみな「話せる」わけではない**

**・「話せる」英語力の測定にはVERSANTが有効**

日本企業の多くではTOEICが社員の英語力評価のために使われています。ただ、「TOEICが800点を超えても、実際のビジネスの場で英語を話せない」と指摘される企業の人事担当者の方は多いです。重要なのはTOEICとともに、VERSANTを効果的に使えば、社員の英語力の強化につなげられるということです。まずは両テストのスコア相関図をご参照ください。



## TOEICスコア別分析

# TOEIC900点でも、4人に1人は平均レベル

**・TOEIC900点台の4人に1人は46点以下**

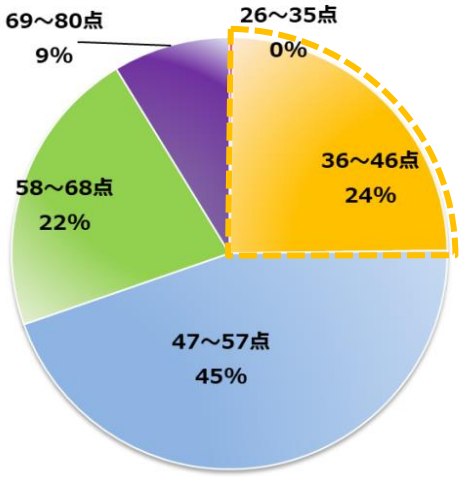
**・TOEIC800点台の5割弱が46点以下**

日本企業で「英語ができる」と評価されるTOEIC800点以上の受験者について分析してみます。TOEIC900点台の申告者は378人であり、TOEIC800点台は585人でした。それぞれについてVERSANT総合スコアの分布を円グラフで占めしました。

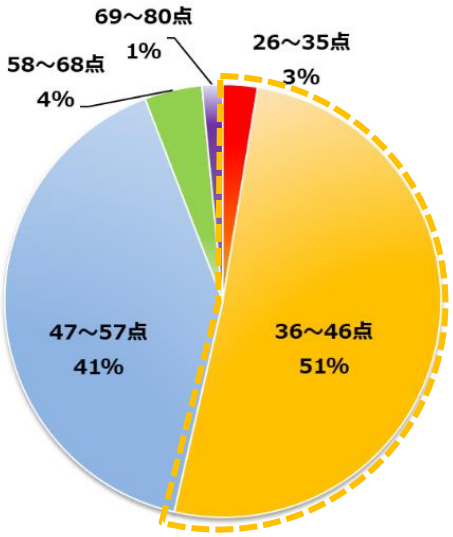
TOEIC900点台ではさすがに47点以上が全体の8割近くを占めています。それでも4人に1人は「平均レベル」とされる46点以下になります。もちろん、TOEIC800点台では46点以下が一挙に半分以上になります。しかも、スピーキングで重要な「流暢さ」「発音」ではかなり低くなります。

TOEIC800点台では「流暢さ」で38点以下が全体の3割になります。これは前述したように「不適切な区切りやリズムが多く、言い淀みや言い誤りも目立つ」「発言は途切れ途切れで、明らかに流暢ではない」というレベルです。「発音」も4割近くが37点以下で、「聞き手はかなりの部分を理解できない」ことになっています。

TOEIC900点台総合スコア分布（378人）




TOEIC800点台総合スコア分布（585人）



## TOEICスコア別分析

# TOEIC700点台では「話せない」人が一挙に増える

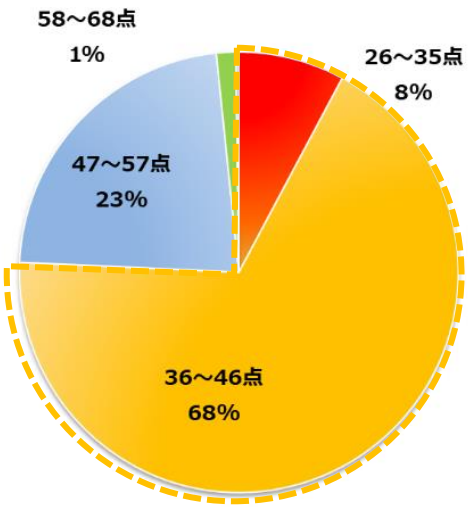
**・TOEIC700点台の7割強が46点以下**

**・「流暢さ」と「発音」の低さが大きく影響**

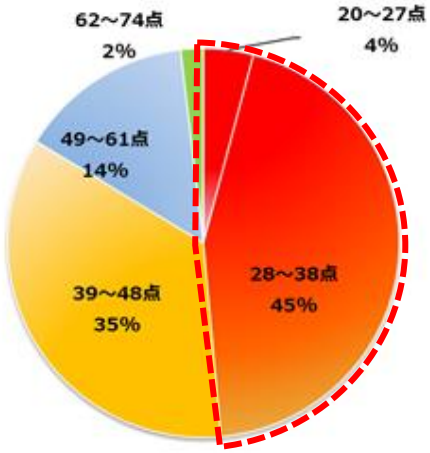
グローバル戦略を加速している日本企業の多くではTOEICで600～800点のスコアが平均層といえます。法人モニターでもTOEIC申告スコアの平均は674点でした。こうした平均層では英語スピーキング力に大きな課題を抱えています。ただ、ここでTOEIC対策にばかり重点を置けば、英語スピーキング力の強化が遅れかねません。

TOEIC700点台では下の円グラフで示しているように「流暢さ」「発音」のスコアの低さが全体の総合スコアに影響しています。特に「流暢さ」で38点以下、「発音」で37点以下は半分程度です。これではなかなかビジネスの会話が成り立ちません。

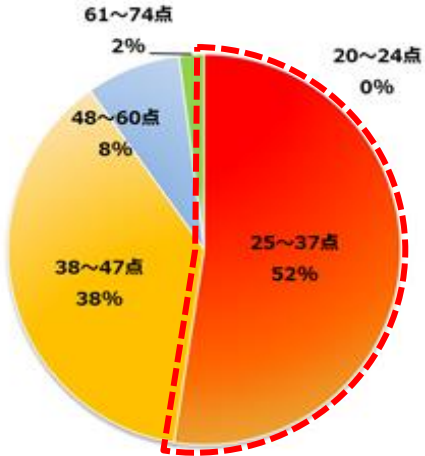
TOEIC700点台総合スコア分布




TOEIC700点台「流暢さ」スコア分布




TOEIC700点台「発音」スコア分布



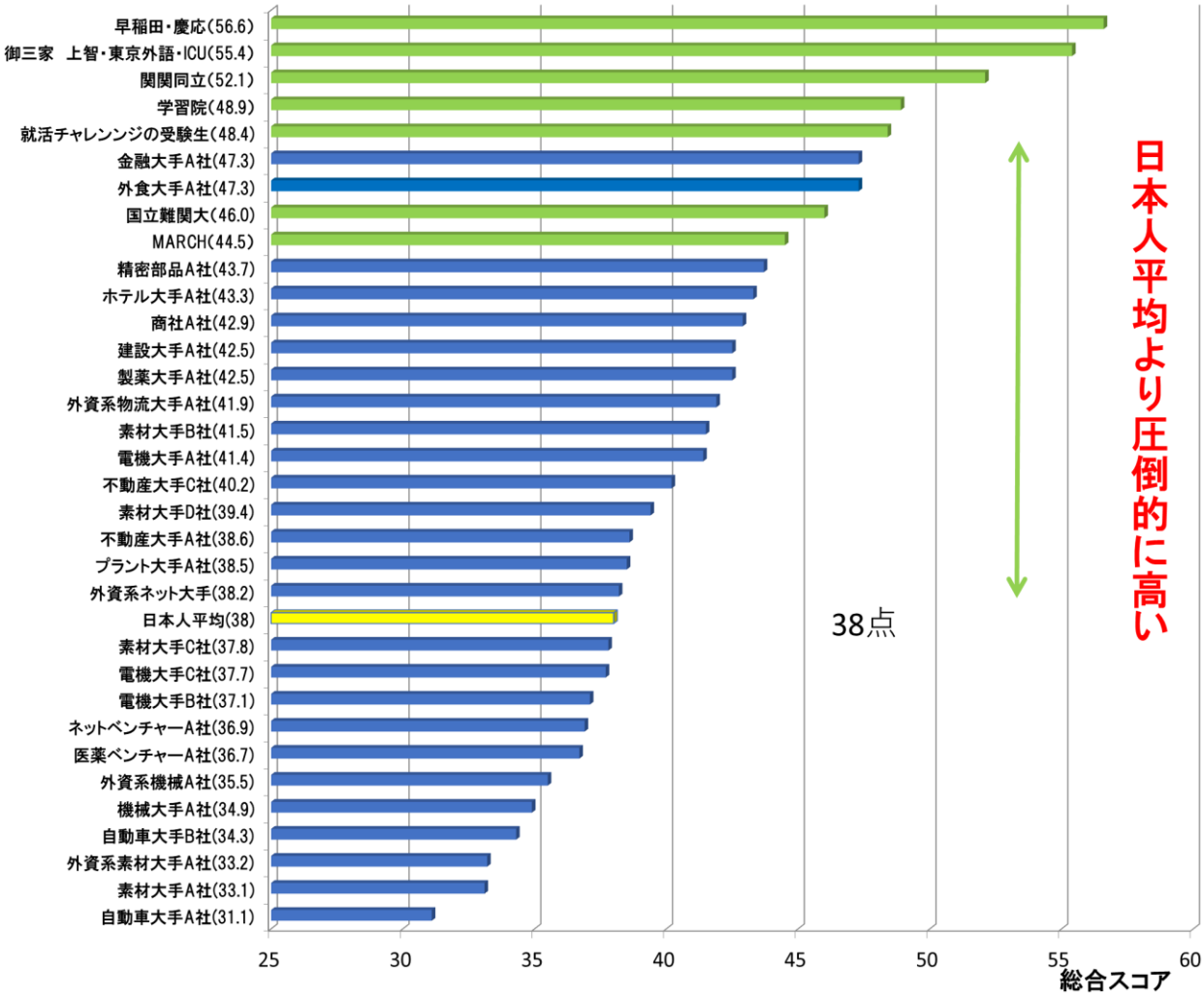
## 平均スコアのランキング

# 英語が本当に「話せる」学生の採用に有効なVERSANT

**・関東や関西の有力大学が上位を独占**

**・上位300人のうち4割が大学生**

日本経済新聞社は就職支援大手のディスコ社などと「就活チャレンジ～大学生1万人無料受験」というキャンペーンを開催しています。すでに800人を超える大学生が受験しています。全体で3475人VERSANT総合スコアで58点以上の上位300人のうち、4割が就活チャレンジなどディスコ社のイベントで受験した大学生でした。まずは大学別のスコアについてグラフを作成しました



## 大学別スコア比率

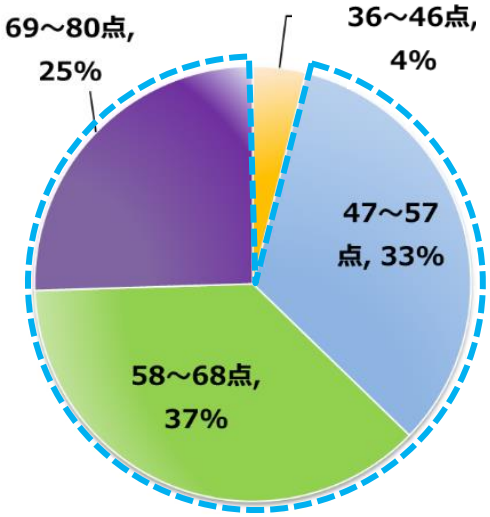
# 早稲田・慶応学生の平均スコアは56.6点

**・早稲田や慶応の学生は6割が58点以上**

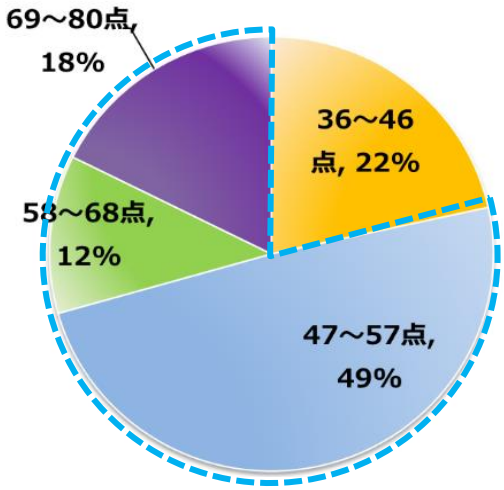
**・御三家や関関同立の学生も健闘**

早慶の総合スコア平均は驚きの56.6点でした。さらに英語に強い「御三家」（上智、東京外大、国際基督教大）も55.4点であり、いずれも圧倒的に高い英語力を発揮されています。こうした難関校では法人モニターでは少ない47点以上が大半であることが分かります。

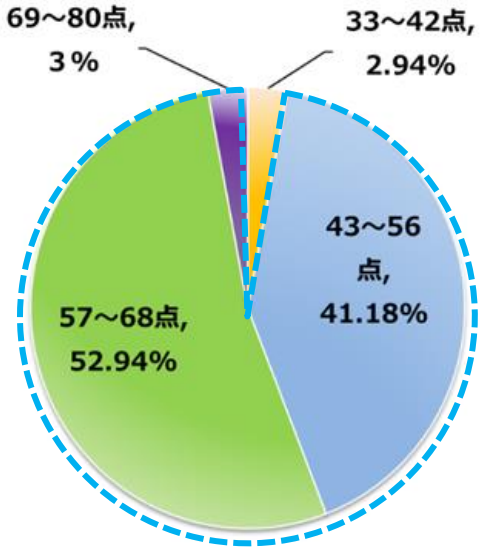
早稲田・慶応受験者総合スコア分布



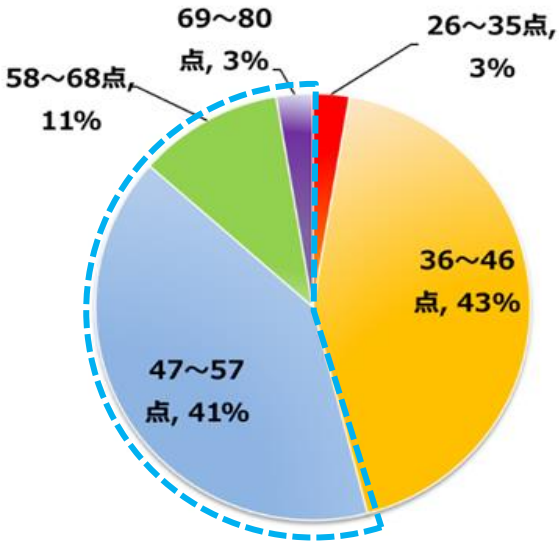

上智・東京外大・国際基督教大受験者総合スコア分布




関関同立受験者総合スコア分布




国立超難関大受験者総合スコア分布



## 終わりに

# 採用や選抜・研修にVERSANTをご活用ください

日本経済新聞社では今年6月から、ディスコと共同で現在の大学3年生を主な対象にした「就活チャレンジ」を本格的に実施していきます。特にディスコ社が主催する6月末の「東京サマーキャリアフォーラム」などで数多くの大学生に受験してもらいます。こうしたモニター受験によって集めたデータもリポートとしてまとめていきます。

VERSANTは英語のできる学生の採用はもちろん、こうした大学生と英語力が近い新入社員ら若手の英語力を把握して、最適な英語研修計画を立案するうえで有効です。

ディスコ社の就活イベントには英語のできる学生が集まる（2月9日のイベント、東京ビッグサイト）

数多くの学生がVERSANTを受験